



つわの

3月定例会

議会だより

東日本大震災により被災されました方々に心よりお見舞いを申し上げます。

被災地の早い復興を心より祈念いたします。

津和野町議会は早速義援金をお送りしました。



町営バス 装いも新たに4月1日より運行開始

(ドイツの人気キャラクターアンペルマンと町のシンボルをラッピングしたバス)

今回の注目！

平成23年度当初予算 2・3p

平成22年度補正予算 4p

一般質問(8名) 5p～8p

請願採択 9p

条例改正・請願審査・請負契約 10p・11p

所管事務調査報告・編集後記 12p

No.22

平成23年4月20日発行
島根県津和野町議会
Tel 0856-74-0089
E-mail gikai@town.tsuwano.lg.jp
印刷：(有)坂田印刷

平成23年度 一般会計予算

71億2750万円に決定！

■主な歳出■

総務費＝歳出総額10億4,132万9千円。津和野まちづくり基金積立金等2億174万円。町営バス8路線を加えた運行業務委託料6,489万4千円は前年度対比で2,717万3千円の増額。

民生費＝歳出総額13億5,947万7千円。前年度対比6,233万円の増額。

衛生費＝歳出総額7億421万2千円。前年度対比4,135万円の増額。

農林水産業費＝歳出総額3億4,733万8千円。

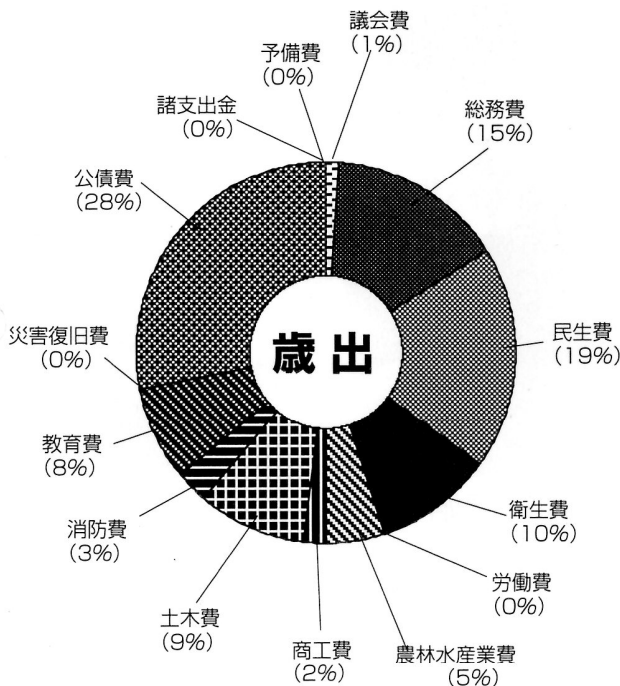
商工費＝歳出総額1億7,672万9千円。

土木費＝歳出総額6億2,400万7千円。

消防費＝歳出総額2億3,628万5千円。日原地区消防センターの完成により、前年度対比1億3,100万3千円の減額。

教育費＝歳出総額5億9,637万6千円。前年度対比7,002万円の減額。

公債費＝歳出総額19億3,239万6千円。前年度対比1億9,024万6千円。



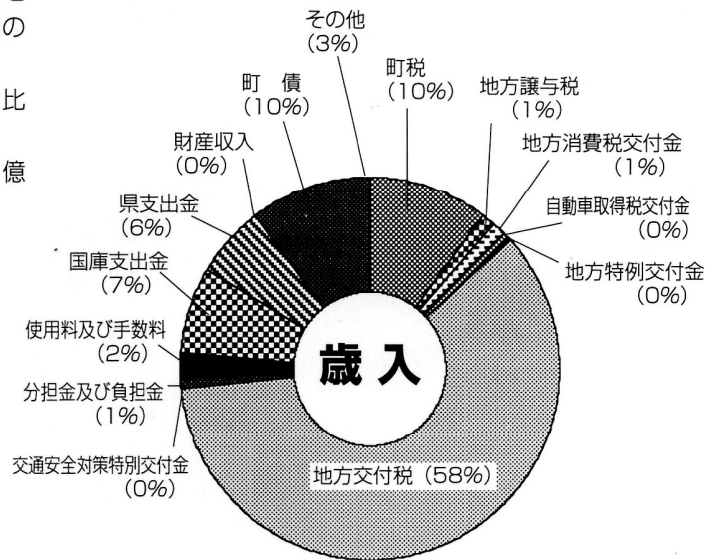
■主な歳入■

町税＝自主財源である町税は景気低迷の影響により、市町村民税2億4,462万4千円（前年度対比△7.7%）をはじめ、総額6億9,215万9千円で2,925万7千円（△4.2%）の減額。

地方交付税＝普通交付税38億2千万円、特別交付税4億円で合計42億2千万円で、前年度当初予算より1千万円の減額。

使用料及び手数料＝総額1億1,127万8千円。前年度対比534万7千円の増額。

町債＝総務債5億260万円。土木債1億2,010万円等、総額7億2,180万円。前年度対比1億6,270万円の減額。



【その他の内訳】

- ・利子割交付金 (0%)
- ・配当割交付金 (0%)
- ・株式等譲渡所得割交付金 (0%)
- ・寄付金 (0%)
- ・繰入金 (2%)
- ・繰越金 (0%)
- ・諸収入 (1%)

平成23年度特別会計予算

(単位：千円)

国民健康保険特別会計	1,066,262
介護保険特別会計	1,252,927
後期高齢者医療特別会計	286,835
簡易水道事業特別会計	389,986
下水道事業特別会計	388,790
農業集落排水事業特別会計	5,703
奨学基金特別会計	13,483
電気通信事業特別会計	75,861
診療所特別会計	99,452
介護老人保健施設特別会計	508,621
病院事業会計（収益的収入、支出）	756,636
（資本的収入、支出）	39,138



▶ 4月 やぶさめ神事

一般会計予算審査特別委員会

第一分科会 (総務常任委員)	歳入全般、 歳出の内 議会費、総務費（戸籍住民基本台帳費を除く）、消防費、公債費、諸支出金、予備費、債務負担行為、地方債
第二分科会 (文教民生常任委員)	歳出の内 総務費の住民基本台帳費、民生費、衛生費、教育費
第三分科会 (経済常任委員)	歳出の内 労働費、農林水産業費、商工費、土木費、災害復旧費
《統括意見》 東日本大震災の影響で、政策変更が予測される。今後の情勢に対する確な対応、予算執行をされたい。また予算審査にあたり歳入・歳出予算内示書の提示など関係資料の整備を望む。 《審査の結果》 賛成多数で原案のとおり可決すべきと決した。	

平成23年度当初予算可決！

わが町の一般会計当初予算審議は、予算審査特別委員会へ付託して行います。各常任委員会ごとに3つの分科会に分かれ関係予算についてそれぞれ審議しました。

各分科会での審議結果をもとに全体会で委員会としての審議結果をまとめ3月31日の本会議最終日に、青木克弥委員長による予算審査報告を行い、質疑討論ののち、賛成多数で可決しました。

主 な 意 見

- * 自主財源である町税など、前年比4.1%減額予算であり、滞納徴収に法的措置を含め更なる努力を望む。
- * 斎場施設の改善に向けて早急に着手されたい。
- * 予算としてあげている種々の補助金、補助制度の町民への周知を図るべき。
- * 学校用務員の配置について、業務量を精査し、適正配置を考慮されたい。
- * 農林水産費において、新事業が多く組まれているが、関係機関とよく協議連携しながら進めるべき。

← 反対討論

V S

賛成討論 →

※学校教育費が切り詰められる中、町債1,300万円も含め、総額2,600万円を超える予算で鷗外150周年行事を進めるべきか。また定住も重点施策のはずだが、予算に反映されていない。

※急激な人口減少の中、子ども達がこの債務を背負わねばならない。学力向上は喫緊の課題であるのに具体策、予算が立てられていない。

※鷗外生誕150周年という大きな節目の稀な貴重な行事である。

今やらずにいつやるのか。

※疑義を感じることも多い。様々な意見要望を反映させながら町民のために、速やかに予算執行して行くべきである。

平成22年度 補正予算 (第5号・第6号)

主な歳出

一般会計補正予算 (第5号) 2億6,293万5千円を追加して

歳入歳出総額 84億1,115万1千円を可決しました

項 目	内 容	補 正 額
総 務 費	・ 財政管理費 (財政調整基金積立金) ・ 工事請負費 (ケーブル引込工事費) 主事常勤に伴う公民館整備 ・ 若者定住促進対策奨励金の追加	5,800万円 241万円 187万円
民 生 費	・ 保育所運営委託料	544万円
衛 生 費	・ 積立金 (地域医療推進基金積立金) ・ 繰出金 (病院事業特別会計繰出金)	4,000万円 4,322万円
農 林 水 産 業 費	・ 農業振興費 (地産地消出荷奨励補助金) ・ 林業振興費 (作業道開設分の森林整備・再生事業委託料)	205万円 117万円
商 工 費	・ 商工振興費 (観光リフト工事請負費) ・ (緊急プレミアム商品券補助金)	1,326万円 ▲715万円
土 木 費	・ 道路橋梁総務費 (用地購入費) ・ 道路維持費 (除雪作業委託料)	128万円 1,055万円
教 育 費	・ 津和野小・中学校屋内運動場の耐震補強工事 ・ 青原小学校屋内運動場改築に伴う設計監理委託料 ・ 須川公民館ほか3館の電気設備等改修 ・ 文化財保護費 (看板設置工事) ・ 山村開発センター費 (パイプ椅子更新)	1億4,000万円 ▲1,772万円 137万円 83万円 104万円
公 債 費	・ 償還金利子及び割引料として、長期債利子	▲710万円

主な歳出

一般会計補正予算 (第6号) 1億6,604万3千円を追加して

歳入歳出総額 85億7,719万4千円を可決しました

項 目	内 容	補 正 額
総 務 費	・ 一般管理費 (東日本震災被災町村への義援金、町村会負担金) ・ 財政管理費 (財政調整基金積立金)	150万円 1億8,900万円
民 生 費	・ 社会福祉総務費の扶助費 (福祉医療助成金) ・ 障害者福祉費の扶助費 (就労継続の過誤納付分)	80万円 300万円
衛 生 費	・ 予防費 (子宮頸がんのワクチン不足等により予防接種委託料) ・ 保健事業費 (検診人数の減により検診委託料)	350万円 ▲90万円
農 林 水 産 業 費	・ 農業振興費 (しまねの元気な郷づくり事業費補助金等の事業確定) ・ 中山間地域総合整備事業費 (負担金補助及び交付金の事業確定)	▲255万円 ▲266万円
商 工 費	・ 観光リフト運行費 (支柱車軸等修繕工事の金額確定)	▲76万円
消 防 費	・ 広域市町村圏事務組合 (東日本大震災に援助隊で出動した負担金)	13万円
教 育 費	・ 教育諸費 (教育ビジョン、進捗遅延のための印刷製本費)	▲100万円
公 債 費	・ 一時借入金利子	▲85万円

特別会計歳入歳出予算の補正

内 容	予算総額 (千円切捨)
国民健康保険特別会計	10億8,038万円
介護保険特別会計	12億7,995万円
後期高齢者医療特別会計	2億7,953万円
簡易水道事業特別会計	3億927万円
下水道事業特別会計	3億880万円
奨学基金特別会計	1,670万円
電気通信事業特別会計	2億8,682万円
診療所特別会計	1億2,557万円
介護老人保険施設事業特別会計	5億6,249万円
病院事業会計 (病院事業費用)	7億5,288万円 (予定額)
〃 (医業外費用)	1,310万円 (予定額)

一般質問

過疎地域自立促進計画



河田 隆資 議員

河田 12月議会において執行部より総予算139億円の自立促進計画が打ち出された。計画内容をすべて実現したなら今当町が抱える諸問題がかなり解決するであろう計画となっている。旧過疎債の延長版で当町持ち出しは最高でも3割負担という有利な条件である。国・県との折衝が非常に大切となるが、町長の計画実現に向けての意気込みを問う。

町長 計画に沿った実施ができるよう全国過疎地域自立促進連盟（溝口善兵衛島根県知事が会長を務めている）より強く国に働きかけていただくと同時に関連機関に最大限の努力をしていく。

問 それに伴い、改善されつつある財政の悪化が心配されるが、財政見通しを問う。

町長 現時点の中期財政計画上の見込みでは、実質公債費比率を平成23年度18%台・平成24年度17%と見込んでいく。中期財政計画は毎年ローリングをかけて財政の見通し

を立てており、23年度はソフト事業分を加味した年度計画を見直しながら最低でも現行の率を維持していく。

問 事業内容について3点問う。首都圏で当町の特産品販売と観光情報提供を行い、さらにアンテナマンが営業所を開設・常駐し、商品販路開拓、観光営業、ふるさと納税PR、定住対策と町の情報発信収集を行うアンテナマン開設事業は、どのように計画し進めていくとしているのか。

町長 近年首都圏の高品質スーパーとの商談も徐々に進みつつあり、観光地津和野のネームバリューと共に津和野ブランドを打ち出す好機と考えている。過疎債にソフト事業も加味されたことから、早い段階で事務所の位置や職員の身分、勤務条件等の検討を進める。

（その他の質問）

温泉掘削調査事業について
SLTラスト事業について

津和野高校、産業、生活を守る



岡田 克也 議員

◎津和野高校への支援について

岡田 益田圏域で新1年生になる学生は昨年比98名減であるが、津和野高校は昨年比4人減と、ほぼ変わらない志願者を確保している。このことは、津和野高校の教職員の方々の不断の努力の賜であると思う。生徒の学力に応じたきめ細かな指導や、理科3科目を開講し、少人数教育で進学や就職を後押ししている。これからの圏域の少子化を鑑みる時、遠方からの入学が重要であると考え。寮生や遠方からの通学者の支援策を問う。

教育長 入学希望者の内、県外から11名の志願者がおり、昨年度から取り組んでいる県外募集の成果だと考えている。校区外からの生徒募集を継続するためには、寮の充実や入学後の支援が重要であると考え。寮の充実は、3か年1、500万円の県の支援事業を活用する。また、校区外から入学する生徒を見守る家庭を登録する制度を実施している。さらに、生徒の親族が

町内に宿泊される際、町旅館組合の宿泊料金の割引を了承いただいている。また、益田や山口等の遠方から通学していただくため、JRの定期代の2割を補助するように考えている。

◎ケーブルテレビを利用した地域振興策について

問 今後の地域の状況、商業振興を考える時、ケーブルテレビを利用した買い物支援システム等の地域振興策について問う。また、ケーブルテレビの回線を利用した携帯電話の不感地区の解消策について問う。

町長 本町のケーブルテレビシステムも、住民生活の向上や経済との連携に向けた多様な利用形態を研究構築していく。本町のファイバーケーブルを利用し、20か所の基地局を開局した。引き続き、新たな基地局の開設を要望し、またインターネット回線を利用した超小型携帯電話基地局システム等を検討する。

一 般 質 問

通 級



道 信
みちのぶ
俊 昭 議員
としあき

◎通級児童

道信 通級児童とは、「知的には何ら問題がないので普段は通常の学級に在籍しているが、軽度の言語障害、情緒障害、弱視、難聴などがあるので通級教室にも行っている児童生徒のこと」である。

昨年度は中学校に通級教室を設置、専任教師の配属が行われたが、今回は、保育園に教室を設けることはできないか、または小学校の専任教師が幼児を指導することはできないかを問う。

教育長 保育園に設置することとは現段階では困難である。小学校の教員による指導は専任が1名なので負担が大きい。

ただ、小学校の通級指導教室の見学や相談は可能である。希望者は津和野小学校に連絡をして日程調整をしていただきたい。

◎蛭橋付近の除雪

問 津和野町木部地区が益田市と接する所に白杭トンネルがある。雪深い地域では、益田市の農道の蛭橋付近は特に危険。この場所ですリップによる4台もの玉突き事故が発生した。4名とも津和野町民。私は市役所、益田土木、津和野土木に対策を依頼した。直ちに益田市は看板を立て、県土木は除雪と融雪剤散布の一本化、カメラ設置の予算請求をしたとのこと。

この道路のほとんどは津和野町民が利用している。「区域外なので何もしません」ではいけない。津和野町としての負担と協力の姿勢を問う。

町長 管理道内の苦情要望等においてはそれぞれの管理者が対処する。なお、該当の道路についての除雪は県にも現状を説明し、益田市においては有効な作業をお願いしている。

町 政 に つ い て

◎施政方針より



後 山 幸 次 議員
うしろやま ゆきつぐ

後山 昨年は町長の初めての施政方針で、今年度が2度目の施政方針であるが、昨年度と対比したところ、同一文面が大変多く新鮮味に欠け期待外れの施政方針であった。「美言信ならず」の諺もある。施政方針の編集には、当然各課長の意見集約をして、最終判断は町長である。「人を以て言を廃せず」、来年度の施政方針を大いに期待したい。

町長 施政方針が180度変わるものでもない。1期4年の中で、どうかを考えている。昨年の資料を大前提として編集している。定住対策等は22年度と同じ継続を前提にしているところもある。

◎財政について

問 本年度予算71億2,750万円で対前年度比1億5,675万2千円の減額予算であり、自主財源も15・8%の

状況で、町税全体でも4.2%の減額である。また臨時財政対策債を含めた地方交付税も、対前年度比1億4千万円減額であるが、自主財源である町税の収納率が下れば益々町財政が圧迫されるが、この財政危機をどのように乗り越えて行く考えか問う。

町長 景気の長期低迷、人口減少、少子高齢化の進行により、町税収は依然として低迷している。町では集中改革プランを策定し、人員削減、給与カット等、総人件費の抑制、歳出の削減を行う。町税等の自主財源の比率が低く、地方交付税に依存する割合が高く、国の財政運営に左右される不安定な状況にある。

〈その他の質問〉

営業行政について
農林行政について
教育行政について
建設行政について

一般質問

津和野町地域防災計画の避難場所に関して



米 澤 宏 文 議員
よ ね ざ わ ひ ろ ふ み

◎避難場所の再調査と見直し
米澤 現在の避難場所は約18年前に設定されたが、最近の想像を絶する集中豪雨や避難建物の老朽化や位置を考慮すると見直しの時期に来ていると思われるがいかがか。私の調査では115力所の内、近くの側溝に蓋無し、川のそば、急傾斜地の下、橋有り等で不適40力所でした。

町長 指摘のように年数の経過した建物もあり既存の避難場所については点検、見直しを行い安全性の確保を図る。

問 洪水時橋を渡るのと蓋の無い側溝経由の避難は非常に危険、積極的な見直しを。避難場所の表示無い所も多い。新規作成し表示しては。

昨年の新聞に県内5町被災時の非常食備蓄無しに津和野町あり、JAや商工会等と食糧提携締結はされているか。

100年に1回の確率で発生する「1日の総雨量265mm」超の大雨が津和野で降れば町中水浸し、ある程度の非常食備蓄は必要ではないか、比較的水

害が少ない隣山口市阿東地区と食糧提携を考慮しては。

町長 避難場所表示は今後付きたい。非常食現在備蓄無し、災害時県の提供とキヌヤと協定、阿東地区も考慮する。

◎町独自の避難計画の作成

問 町内約3千6百戸の戸別の避難計画作成を町全域に分散し、最大の組織力と行動力を持つ消防団に火災予防運動に併せ依頼してはどうか。

町長 各種災害に対応し個別の計画は難、地域で自主防災組織が結成され、行政機関と連携が最も有効な対策。

◎町道沿いの側溝に蓋を

問 災害時避難の安全と歩行安全、交通安全のため町道沿いの側溝に自治会等の希望アンケートをとり、蓋を設置してはどうか。側溝は道路に濁流が溢れて踏み込むと殺人凶器となる。

町長 アンケートは現時点考へなし、防災担当者で連携し建設課も地域実情把握に努める。

定住人口増加策



川 田 剛 議員
か わ だ つ よ し

川田 就任以来、町長は様々なアンケートで町民の意見を収集されてきた。今年で任期の半分が終えるという中で、人口増加策、定住策における具体的な施策と方針はあるのか。

町長 具体的には「仕事」の確保のために農業振興を行う。「直売所の環境を向上させる研修」など、新規事業を計画している。兼業が鍵を握るとの考えから、林業振興も行う。「環境保全支払制度モデル事業」等を計画している。また、定住フェアの参加や、ホームページなどを活用していく。

問 ①定住の条件付きで大学の授業料を無償化するなど、抜本的な定住策を提案する。②農業振興はよそでも実施しているが、本町の施策のメリットは何か。③空き家対策に町が携わってから現在まで何件の応募があったのか。④介護分野等で期待されるEPA

(経済連携協定) による外国人労働者の受け入れについて、本町はどう向き合っているのか。

町長 ①無償化にしても本当に帰ってくるのか、帰っても仕事があるのかわからない。②働く中で価値観を見出してもらいたい。③覚えている範囲で5件前後である。④これから制度の勉強をしていく。

◎積雪対策

問 積雪時の除雪の対応について、国・県・関係各機関との連携はどのようになっているのか。今後の課題、対策は検討されているのか。

町長 今年1月14日、初めて国交省の呼び掛けで「雪寒体制関係情報連絡会議」が開かれ、情報交換した。近年、除雪可能業者が激減し、今後作業が厳しくなっていくことが課題である。県と連携して、生活の安全安心を確保していかなければならないと考えている。

一般質問

計画は着実な実行を



青木 克弥 議員

◎町長施政方針について

青木 基本的な方針は、昨年度の総括に基づいていると思うが、特に、行政評価制度の進捗状況はどうか。職員の意識はどの様に変ったのか、営業課、地域振興課、まちづくり政策課の新しい課の設置の効果についてどの様に評価しているのか。

町長 行財政改革を進める上での行政評価制度の導入は、事務事業の見直しをはじめ多くの行政上の評価に役立つものであり、着実に制度の構築に向けて進めている。職員の意識については、様々な振興計画や、町民意識調査の結果を踏まえ、それぞれの関係事務に関わるにより、変わりつつあると思う。三つの課の効果については、縦割り行政の弊害を解消していくための重要な役割をもつもので、課の連携がやや不明確な点もあると思うが、創造性に富んだ町づくりを進めていく上

で、大きな働きをしていると自負している。2年目には更に充実していきたい。

問 今年の重点施策として定住対策、健康づくり、地産地消が上げられているが具体的な内容について問う。

町長 定住対策については、定住自立圏共生ビジョンの策定をし、働く場の確保として特に農業の振興を図りたい。また、少子化対策としての保育園の充実を図りたい。そのためにも一刻も早い集落の維持、活性化の取り組みを図りたい。健康づくりについては、医療との連携や、各種検診の推進が重要と考え、地域包括センターの充実を図りたい。地産地消については、直売所の販売促進をすすめ、地域における商店や観光関連業者との連携を深めるための取り組みを行う。併せて都会における有名な業者との取引を促進するための対策を強化することにより地産地消を進める。

行財政改革の検証と見直し



京村 まゆみ 議員

京村 新しい課と他の課の連携はうまくいっているのか。

町長 新しい課はこの1年官民協働の町づくりに重要な役割を担ってきた。課題解決の取り組みにも配慮していく。

問 課を細分化することと定員管理計画（正規職員削減）の整合性は。また計画の対象外である嘱託、臨時職員の削減状況は。

町長 今年1月現在嘱託職員、臨時職員、計90名である。短期的任用は制度に基づいた任用に努める。また、定員管理計画について139名となり計画通り進捗しているが、様々な状況が変化し合併後5年を経過し再検証を考えている。

問 第3セクターの見直しは。

町長 自治体が損失補償している施設について見直すようにとの総務省からの通達であったが、町内のそれぞれの3セク施設が黒字決算であることなどから見直しは進めていない。

京村 指定管理者制度導入の

実績と、現在直営施設のうち天文台、安野光雅美術館など管理の違う各施設の経営方針と制度導入の是非の検討は。

町長 天文台施設は文化学術施設で、採算性を求める施設でもなく、現在の直営方式による運営をしていく。天文台については周辺施設との兼ね合いから地域振興課の管轄になった。

教育長 指定管理制度導入の最初の時点で検討しているが、安野光雅美術館、森鷗外記念館、桑原史成写真美術館の3館についてはふさわしくないという結論から直営となっている。

問 文化施設である事と直営方式は関係ない。儲けを追及する施設として指定管理導入を進めるべき。教育施設ならばもっと町民利便を図るべき。

教育長 必ずしも指定管理にしないで営業努力はしている。町民バスポートなども今は検討する。

経済常任委員会請願審査報告

木曽野向線町道の舗装工事について

1. 審査事件

本請願は、木曽野地区の生活道路として木曽野線を利用して、この路線は急勾配で日陰地にあり、十分な除雪が出来ず残雪が凍結し、大変危険な道路となります。そこで、中組地区内にある町道木曽野向線全長1、412m、幅員4.0mの内、未舗装区間1、297mを早期に舗装工事をしていただきたいとの趣旨で提出されたものである。

2. 審査結果

木曽野地区住民が現在、生活道路として利用している町道木曽野線は、道路勾配がきつく、冬季における積雪や路面凍結により車両等の通行に支障をきたしている。これに比べ、日当たりも良く、平坦地で線形の良い木曽野向線を、地元住民は多く利用しているのが現状である。

以上、本委員会は、全員賛成

で本請願を採択すべきと決した。

〈意見〉

本路線は、終点部分の140m（未改良部分）が幅員1.5m以内のため、車両の通行はされておらず、接続の県河川管理道の一部を通行使用しているのが現状である。この様なことから、町道の路線変更等も含め県と協議されたい。



▲4月1日 堀庭園

島根県町村議会議長会定期総会



自治功労者表彰

平成23年2月9日に以下の方々が表彰されました。（敬称略）

■全国町村議会議長会長表彰の自治功労者

議員特別表彰	前県町村議会議長会副会長	後山 幸次
議員表彰（在職15年以上）	前議員	原 秀

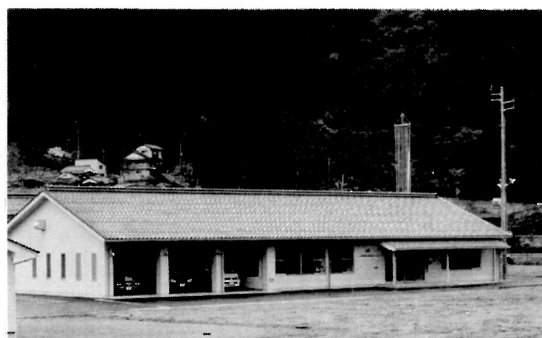
■島根県町村議会議長会長表彰の自治功労者

長期特別表彰（在職25年以上）	前議員	藤井 貴久男
議員表彰（在職12年以上）	議員	斎藤 和巳

3月定例会に提出された議案と結果

【3月15日 定例会】

- ・ なごみの里木質ボイラー設置工事請負変更契約の締結（全員賛成）
 変更の金額 78,722,700円 変更前の金額 78,225,000円 変更額 497,700円
 契約の相手方 東洋熱工業株式会社 山口営業所（山口県岩国市）
- ・ 森村地区下水道管布設工事請負契約の締結（全員賛成）
 契約の金額 72,357,600円 変更前の金額 68,986,050円 変更額 3,371,550円
 契約の相手方 有限会社ナガヨシ技建（津和野町高峯）
- ・ 日原青少年育成協議会の設置に関する条例の廃止（全員賛成）
- ・ 津和野町営住宅設置及び管理に関する条例の一部改正（全員賛成）
- ・ 須川運動場の設置及び管理に関する条例の制定（全員賛成）
- ・ 国指定名勝「旧堀庭園」の設置及び管理に関する条例の一部改正（全員賛成）
- ・ 町道日原添谷線2号の路線認定（全員賛成）
- ・ 町道下中島線の路線認定（全員賛成）
- ・ 町道昭和隧道線の路線認定（全員賛成）
- ・ 町道成日照線の路線認定の変更（全員賛成）
- ・ 町道日原添谷線の路線認定の変更（全員賛成）
- ・ 町道田平線の路線認定の変更（全員賛成）
- ・ 町道鳥居線の路線認定の変更（全員賛成）
- ・ 町道新ヶ原線の路線認定の変更（全員賛成）
- ・ 津和野町一般会計補正予算 第5号（全員賛成）
- ・ 津和野町国民健康保険特別会計補正予算 第4号（全員賛成）
- ・ 津和野町介護保険特別会計補正予算 第4号（全員賛成）
- ・ 津和野町後期高齢者医療特別会計補正予算 第3号（3月SLマラソン）（賛成14・反対1 竹内）
- ・ 津和野町簡易水道事業特別会計補正予算 第5号（全員賛成）
- ・ 津和野町奨学基金特別会計補正予算 第2号（全員賛成）
- ・ 津和野町診療所特別会計補正予算 第2号（全員賛成）
- ・ 津和野町介護老人保健施設事業特別会計補正予算 第2号（全員賛成）
- ・ 津和野町病院事業会計補正予算（全員賛成）



▲ 3月 完成した日原消防センター

【3月31日 定例会】

賛否の分かれた議案・請願の採決・採択状況

○=賛成 ×=反対 欠=欠席	① 京 村	② 村 上	③ 板 垣	④ 竹 内	⑤ 道 信	⑥ 岡 田	⑦ 三 浦	⑧ 青 木	⑨ 斎 藤	⑩ 河 田	⑪ 川 田	⑫ 小 松	⑬ 米 澤	⑭ 後 山	⑮ 沖 田	結果
津和野町議会の議決すべき事件を定める条例の制定	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
津和野町後期高齢者医療特別会計予算	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
津 和 野 町 一 般 会 計 予 算	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
津和野町国民健康保険特別会計予算	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
津和野町後期高齢者医療特別会計予算第4号	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
年金引下げ（案）の撤回、無年金者・低年金者への生活支援金の緊急支給と年金受給資格期間の短縮を求める請願	×	○	×	○	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	不採択

※**主な意見** ・ 東日本大震災が起こった状況の中で、1,000万人にのぼる無年金者・低年金者への生活支援金、月額3,300億円の支給が可能でしょうか。・ 年金を支払って来た者との不平等を感じる。

- ・津和野町介護事業者処遇改善臨時特例基金条例の廃止（全員賛成）
- ・津和野町一般会計補正予算 第6号（全員賛成）
- ・津和野町国民健康保険特別会計補正予算 第5号（全員賛成）
- ・津和野町簡易水道事業特別会計補正予算 第6号（全員賛成）
- ・津和野町下水道事業特別会計補正予算 第4号（全員賛成）
- ・津和野町奨学基金特別会計補正予算 第3号（全員賛成）
- ・津和野町電気通信事業特別会計補正予算 第4号（全員賛成）
- ・津和野町介護老人保健施設事業特別会計補正予算 第3号（全員賛成）
- ・津和野町病院事業会計補正予算 第5号（全員賛成）
- ・新地方公会計財務4表の報告

資産合計 486億円 負債の部 212億円 純資産の部274億円

町民一人あたりの資産は、555万円 町民一人あたりの負債は、217万円

町民一人あたりの行政サービスコストは、83万円

- ・津和野町非常勤職員等の報酬及び費用弁償支給条例の一部改正（全員賛成）
- ・津和野町長及び副町長の諸給与条例の一部改正（全員賛成）
- ・町長等の給与の特例に関する条例の一部改正（全員賛成）**報酬の15%カット**
- ・津和野町教育委員会教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部改正（全員賛成）
- ・教育委員会教育長の給与の特例に関する条例の一部改正（全員賛成）**報酬の15%カット**
- ・津和野町職員の給与に関する条例の一部改正（全員賛成）**月額報酬額の3%カット**
- ・職員の給与の特例に関する条例の一部改正（全員賛成）
- ・津和野町ケーブル施設の設置及び管理に関する条例の制定（全員賛成）
- ・津和野町営バス運行に関する条例の一部改正（全員賛成）
- ・津和野町食と農のまちづくり条例の制定（全員賛成）
- ・津和野町枕瀬山森林公園の設置及び管理に関する条例の一部改正（全員賛成）
- ・津和野町道路占用料徴収条例の一部改正（全員賛成）
- ・津和野町簡易水道事業給水条例の一部改正について（全員賛成）
- ・津和野町介護保険特別会計予算（全員賛成）
- ・津和野町簡易水道事業特別会計予算（全員賛成）
- ・津和野町下水道事業特別会計予算（全員賛成）
- ・津和野町農業集落排水事業特別会計予算（全員賛成）
- ・津和野町電気通信事業特別会計予算（全員賛成）
- ・津和野町診療所特別会計予算（全員賛成）
- ・津和野町介護老人保健施設事業特別会計予算（全員賛成）
- ・津和野町病院事業会計予算（全員賛成）
- ・津和野町議会議員の議員報酬の特例に関する条例の一部改正（全員賛成）**月額報酬額の5%カット**



▲3月 SLマラソン



▲3月 須川小学校開校式

※請 願

- ・高齢者への肺炎球菌ワクチン接種の推進と接種への公費助成を求める請願（全員賛成にて意見書を提出）
- ・経済常任委員会の請願審査報告（木曽野向線町道の舗装工事について）（全員賛成）

経済常任委員会所管事務調査報告書

【調査目的】

高津川での漁業の現状を把握し、漁業資源を活かした今後の津和野町の観光産業取り組みの判断材料とするため。

（現況） 高津川は、幹線流路延長が81kmで流域に一つもダムのない「日本一の清流」と称えられ、一級河川では全国でも水源が特定できる珍しい川の一つである。数年前までは、アユを獲って漁業を営む川漁師（組合員）が2千人以上いて、年平均漁獲量は115トンあり金額にして約3億円の水揚げがあった。

しかし、近年の猟場環境は様々な社会変化に伴い、人工的な構造物の設置や生活雑排水により流域の自然環境の荒廃が進み、天然遡上するアユも減少し、生産量も減少している。また、組合員も1,800人を割り込んでいる。

対策として、3年前から全国に先駆け100%の地場産アユを放流している。

（事業方針） 高津川流域の自然の恵み、豊かさを感じ取れる特産物の直売所を兼ねた、観光一体型の仮称「高津川清流館」博物館を建設する。

この「高津川清流館」は、高津川に生息する活きた淡水魚、甲殻類、水生植物、田んぼに生息する水生昆虫などを展示する。また、子どもたちが魚に直接触れ合う事の出来るコーナーや、流域の新鮮なアユ、川ガニ、うなぎ等の水産加工を展示販売するコーナーや、遊漁者をはじめ、観光に来られた方々に案内をするなどトータルインフォメーションの役割をもたせる。

高津川漁協産品を中心に有機農法による農産物や猪、地鶏、はまぐり等を、印加冷凍してから冷凍保存をすることにより、一年を通して美味しい商品を提供する。

（まとめ） 高津川漁業協同組合は、日原道の駅のシルク染め織り館への移転については、平成23年4月から、現在の日原支所を移転してスタートさせ、農水産物の加工や、特産品の開発にも力を入れる考えである。

また、特産品の販売等については、益田広域内にある7つの道の駅を中心に展開を考えており、拠点基地としての「高津川清流館」による高津川流域の活性化を目指している。

「高津川清流館」が立ち上がれば、観光産業と地域振興の発展にも寄与すると考えられる。計画推進の上からも、益田広域行政等からの支援が必要と考えられる。



◀ 高津川漁協への調査

編集後記

皆さんの家の近くに昔からの祠や、お地蔵様は有りませんか。

鷺原公園前の県道津和野田万川線の一角に3体のお地蔵様と祠の中に沢山の弘法様が合祀されています。昔から何の祠かな、と思っていました。ご近所に住む91歳のお婆ちゃんの話によると、昭和15年頃（70年前）公園前に県道を付ける時、鷺原八幡宮流鏝馬場の南の土手沿いの3か所に有ったお地蔵様と公園前の家で転居したり、後継ぎが居なくなつた等の理由で祭られていた弘法様が合祀されたものであり、毎年9月21日に公園前のご婦人が供養をしておられます。

県道が付く前は馬車道で、道幅は2.5m位、その当時の服装は男女とも着物、履物はわら草履だったとのこと。

祠やお地蔵様のいわれを、お年寄りから聞いて後世に語り伝えていきたい。

米澤 容文